

筑波大学

【N016 筑波大学】

	筑波大学 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	理工学群（第1年次:520 第3年次:10） 生命環境学群（第1年次:250 第3年次:10） 大学院数理物質科学研究科（M:240 D:111） 大学院生命環境科学研究科（M:278 D:159） 計算科学研究センター 下田臨海実験センター 遺伝子実験センター
沿 革	昭和24（1949）年 東京教育大学理学部、農学部設置 昭和48（1973）年 筑波大学設置、第一学群設置 昭和50（1975）年 第二学群、大学院博士課程生物科学研究科、数学研究科、物理学研究科、化学研究科及び地球科学研究科設置 昭和51（1976）年 大学院博士課程農学研究科設置 昭和52（1977）年 第三学群、大学院修士課程環境科学研究科設置 昭和53（1978）年 大学院修士課程理工学研究科設置 昭和56（1981）年 大学院博士課程工学研究科設置 平成5（1993）年 大学院修士課程バイオシステム研究科設置 平成12（2000）年 大学院数理物質科学研究科及び生命環境科学研究科設置 平成19（2007）年 生命環境学群、理工学群設置 昭和51（1976）年 下田臨海実験センター設置 昭和59（1984）年 遺伝子実験センター設置 平成4（1992）年 計算物理学研究センター設置 平成16（2004）年 計算科学研究センターに改組 平成22（2010）年 計算科学研究センター、下田臨海実験センター及び遺伝子実験センターが共同利用・共同研究拠点に認定
設置目的等	昭和24年に、国立学校設置法により、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校を包括し、東京教育大学が設置された。 昭和48年、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊

かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的として、筑波大学が設置された。

理学分野の教育を担う学士課程の組織としては、昭和48年に第一学群、昭和50年に第二学群、昭和52年に第三学群を設置した。平成19年には、これらの学群組織を全面的に改組し、理学分野の教育を担う生命環境学群（農学分野を含む）及び理工学群（工学分野を含む）を設置した。

理工学群は、理学と工学の領域において、持続可能な社会に必要とされる幅広い教養、論理的かつ柔軟な思考力、実践的スキル、基礎から応用に至る確かな専門性を身に付けさせる教育を目指すとともに、知的創造、問題発見・解決の能力を有する広い視野と豊かな人間性を持つ人材を育成することを目的としている。

生命環境学群は、問題発見・解決能力を身につけ、豊かな人間性を育むことにより我が国の「生命と環境」の分野の中心的な担い手となる人材、国際的に活躍できる未来創造型の人材を育成することを目的としている。

大学院課程の組織として、昭和50年以降、生物科学研究科をはじめとする博士課程7研究科、及び環境科学研究科をはじめとする修士課程3研究科を設置した。平成12年には、大学院重点化の趣旨から博士課程研究科の全面的な改組を行い、数理解析科学研究所及び生命環境科学研究科を設置した。その後、一貫制から区分制への移行、修士課程研究科の統合を中心とした改組を行い現在に至っている。

数理解析科学研究所は、自然科学の基礎とその科学技術の応用について、理学分野（数学、物理学、化学）と工学分野（物理工学、物質工学）の教員が協力して、急激な社会の変化に的確に対応できる基礎から応用まで幅広い視野と優れた研究能力を備えた研究者及び高度専門職業人を育成することを目的としている。

生命環境科学研究科は、生命科学と環境に関する専門分野の深い知識と研究能力、研究技術を持ち、一方で、生命、人間、これらを取り巻く基礎である地球、自然環境、社会環境を幅広い視点で捉え、独創的な発想で研究課題を発掘し、課題を解決する能力を持つ研究者と教育者、高度専門職業人を養成することを目的としている。

計算科学研究センターは、平成4年に計算物理学研究センターとして設置され、科学の諸領域における超高速シミュレーション、大規模データ解析等を中心とする研究、超高速計算システム及び超高速ネットワーク技術の開発並びに情報技術の革新的な応用方法の研究と教育を推進することを目的としている。

下田臨海実験センターは、昭和51年に設置され、海洋及びその沿

	<p>岸に生息する生物の発生学、生理生化学、生態学等並びに海洋学、海洋環境等に関連する生命科学及び教育を推進することを目的としている。</p> <p>遺伝子実験センターは、昭和59年に設置され、遺伝子組換え実験に関する施設、機器等の総合的な管理並びに遺伝子工学並びにその応用分野の研究及び教育を推進することを目的としている。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>筑波大学においては、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的として、教育、研究、社会貢献に取り組んできており、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎科学から先端的学際領域に及ぶ広範囲な教育を展開し、自然科学の新しい地平を開拓し技術の進歩に柔軟に対応できる高度な専門人材の育成を果たすとともに、柔軟な思考力・独創力・発想力・俯瞰力・リーダーシップを併せ持った国際的に活躍できる高度な研究・実務能力を有する人材育成の役割を果たす。 ○ 基礎から応用に至る高い研究実績と、筑波研究学園都市という環境を生かした周辺研究機関との連携・連係大学院や産官学連携、さらに、工学・医科学・農学等との異分野融合教育の実績を生かし、分野横断的に活躍できる理学系人材としての基礎的・学際的能力を備えたグローバルな人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。 ○ 理学分野全般にわたる先端研究と異分野融合研究の実績と、ノーベル賞受賞者3名の指導を受けた伝統を生かして、計算科学、素粒子・原子核・宇宙物理学や、新エネルギー開発を目指した藻類研究などの世界的な最先端研究を発展させ、さらに、分野間連携による逆問題研究や筑波研究学園都市の研究機関との有機的な連携による数学・化学・物質・生物・生命・地球・環境科学研究を展開することにより、世界トップクラスの研究を強力に推進する。 ○ 学際計算科学、海洋生物学、形質転換植物研究における共同利用・共同研究拠点の高い研究実績と学際融合や産学連携・国際連携の実績を生かし、世界トップクラスの最先端研究を一層推進するとともに、学際的でグローバルな人材育成の役割を果たす。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">○ 高大連携や科学オリンピックの支援などにより、自然科学教育全般に寄与する。また、筑波研究学園都市の特性を生かした産学官連携と新たな産業の創出により、科学の社会への還元を推進し、放射線や遺伝子組換えなどに関する正確な情報の提供により、安全安心社会の構築に幅広く貢献する。
○ 社会人特別選抜や昼夜開講制、教員免許状更新講習などの実績に加えて、社会人のための博士後期課程早期修了プログラムや筑波研究学園都市の研究機関との連携を活用した人材育成プログラムなどの特色ある取組の実績を生かし、最先端かつ高度な知識・技術の習得による社会人学び直しを推進し、社会が求める人材育成・再教育に寄与する。 |
|--|--|